

滋賀地域交通ビジョン（案）について

1 滋賀地域交通ビジョンの概要

- (1) 県民の日々の生活に密着した「地域交通」に特に焦点を当て、さまざまな社会情勢の変化に対応した持続可能な交通ネットワークの維持・活性化を目指すことを目的として策定
- (2) 「地域交通」は、福祉、教育、文化、観光、企業誘致、さらにはCO₂n ネットゼロ社会の実現など、社会を支える土台であり、地域にとって欠かすことのできない重要な社会インフラと位置付け
- (3) 「地域交通」により「自家用車を使えない人、使えない時でも日々の生活の移動ができる」、「自家用車を使わない選択ができる」社会を実現するため、「誰もが、行きたいときに、行きたいところに移動ができる、持続可能な地域交通」を目指す姿と整理

2 策定の位置づけ

滋賀県基本構想の実現を目指し、「誰もが、行きたいときに、行きたいところに移動ができる」社会に向けて、本県における地域交通の将来の目指す姿と今後のあり方を示す。

3 県民政策コメント等の実施状況

(1) 実施概要

実施期間：令和5年12月25日（月）～令和6年1月25日（木）

実施結果：35者49件、7市町28件、庁内7課41件（合計118件）

(2) 寄せられた主な意見と県の考え方

別紙のとおり

4 これまでの協議の経緯

令和4年6月23日	滋賀交通ビジョン見直しに向けた懇話会（第1回）
7月9日	土木交通・警察・企業常任委員会（滋賀交通ビジョンの見直しについて）
11月25日	滋賀交通ビジョン見直しに向けた懇話会（第2回）
令和5年2月6日	滋賀交通ビジョン見直しに向けた懇話会（第3回）
3月7日	土木交通・警察・企業常任委員会（滋賀地域交通ビジョン骨子（案）について）
9月13日	土木交通・警察・企業常任委員会（滋賀地域交通ビジョン策定に向けた進捗状況について）
12月14日	土木交通・警察・企業常任委員会（滋賀地域交通ビジョン（素案）について）
12月20日	滋賀地域交通ビジョン策定に向けた懇話会（第4回）
令和6年2月14日	滋賀地域交通ビジョン策定に向けた懇話会（第5回）

5 今後の予定

令和6年3月下旬 滋賀地域交通ビジョン 策定

滋賀地域交通ビジョン（素案）に対して提出された意見・情報とそれらに対する県の考え方について

1 意見・情報の募集結果について

令和5年12月25日（月）から令和6年1月25日（木）までの1か月間、滋賀県県民政策コメント制度に関する要綱に基づき、「滋賀地域交通ビジョン（素案）」についての意見・情報の募集を行った結果、35者から49件の意見・情報が寄せられました。

また、同時に市町への意見照会を行い7市町から28件、庁内から7課41件の意見・情報が寄せられました。

これらの意見・情報について、内容ごとに整理し、それらに対する考え方を以下に示します。なお、取りまとめに当たり、提出された意見・情報の一部は、その趣旨を損なわない範囲で内容を要約したものとなっています。

2 提出された意見・情報の内訳

項目	県民政策 コメント	市町の 意見	庁内の 意見
第1章 策定の趣旨	12件	9件	10件
第2章 滋賀の現状	5件	0件	11件
第3章 滋賀の交通をめぐる課題	2件	2件	8件
第4章 滋賀県が目指す地域交通の姿	6件	6件	7件
第5章 目指す姿を実現するための施策例	7件	0件	4件
第6章 施策推進に向けて	8件	2件	1件
第7章 まとめ	1件	1件	0件
その他	8件	8件	0件
意見・情報 合計	49件	28件	41件

No.	頁	行	意見・情報（要約）	県の考え方	（案）頁
1	1		本ビジョンと関係法律との関係を整理すべきではないか。	県としてましては、交通政策基本法の基本理念にのっとり、地方公共団体の責務として、ビジョン策定に限らず様々な施策を進めていることから、 <u>1.5.4にビジョンの位置付けを追記</u> します。	18
20	2	20	持続可能な形での公共交通の維持確保目指す上で、「通勤」利用の拡大は課題であることから、企業も役割についても記載が必要ではないか。	御意見を踏まえ、「 <u>住民や企業は自治体の施策への理解と協力および地域交通の積極的に利用する責務を担う</u> 」と修正します。	2
69 ～ 71	70	図4.2	ビジョン策定後は、20年近くこのイメージ図が議論のベースになってしまう懸念があるため、イメージ図は削除を強く求める。 残すのであれば、地域の実態をきちんと踏まえたイメージ図の整理をお願いします。	（素案）P69に記述のとおり、この地域分類は地域指標を設定する際の参考となるように便宜的に分類したものです。具体的にどのように分類するかは、まちづくりの計画・方針等と関連することから、今後各市町の意向も踏まえて検討するものと考えています。	
91	113		交通税の導入には反対。まずは既存の予算を見直すべきではないか。 ○ライドシェアを導入する等規制緩和を進めるべきではないか。	県としては、既存ストック（既存の輸送資源）の有効活用、国庫補助金の活用、既存予算の組み換え、交通事業者の企業努力、利用促進等に取り組んでもなお財源が足りない場合、財源確保の一つの方法として例えば交通税のようなものがあればどのような社会になるのかということを示しながら、今後財源や整備手法について丁寧に県民等と議論を重ねてまいります。 ライドシェアについては、地域の移動ニーズとそのニーズに適した手段は何かを市町や事業者、住民の皆さま等と検討し、その結果「ライドシェア」の導入が適していると判断できる地域があれば、県としても積極的に関与し、その地域において、利便性が高くかつ効率的な地域交通を構築できるよう取り組んでまいります。	